製品安全データシート

Agilent Technologies

CRS Single Cartridge Gas Purification System with 1/4″ Fitting, Part Number 5183-4599

1。 化学物質等及び会社情報

製品名 : CRS Single Cartridge Gas Purification System with 1/4″ Fitting, Part Number 5183-4599

製品番号 : 5183-4599

供給者/ 製造者 : 会社名 Agilent Technologies, Inc.
住所2850 Centerville Road Wilmington
Delaware 19808, USA

緊急連絡用電話番号(受付時間) : 緊急連絡先アジレント・テクノロジー株式会社
住所東京都八王子市高倉町9-1 (〒192-8510)
担当部門カストマコンタクトセンター
電話番号0120-477-111
FAX 番号0120-565-154

化学製品の推奨される用途

分析化学。
密封されたクロマトグラフ用カートリッジ

このMSDSは、この商品の内容に基づいて書かれています。

2。 危険有害性の要約

GHS分類 : 自己発熱性化学品 - 区分 2
急性毒性: 経口 - 区分 4
皮膚腐食性/刺激性 - 区分 1C
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 - 区分 1
発がん性 - 区分 1A
特定標的臓器毒性(単回暴露)[気道] - 区分 1
特定標的臓器毒性(単回暴露): 吸入した場合 [副腎、腕、膀胱、血液系、骨髄、骨、脳、腎臓血管系、中枢神経系(CNS)、結膜、消化器系、耳、内分泌物、内皮、目、足、指、胆嚢、神経節、消化器管、腺、手、頭、心臓、視床下部、免疫系、腎臓、脚、肝臓、肺、リンパ系、粘膜系、筋肉組織、神経系、鼻/鼻腔、視覚神経、卵巣、膵臓、末梢神経系、脳下垂体、胎盤、前立腺、生殖器系、皮膚、脊柱、脾臓、胃、歯、精巣、喉、甲状腺、舌、気管 および 子宮/子宮頚] - 区分 1
特定標的臓器毒性(単回暴露)[気道刺激性] - 区分 3
特定標的臓器毒性(反復暴露): 吸入した場合 [肺] - 区分 1
特定標的臓器毒性(反復暴露)[気道 および 精巣] - 区分 2
水生毒性(急性) - 区分 1
水生毒性(慢性) - 区分 1

未知の毒性成分から成る混合物のパーセンテージ: 27.2%

水生環境に対する未知の危険有害性成分から成る混合物のパーセンテージ: 24.5%

GHSラベル要素

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 大量の場合自己発熱;火災のおそれ。
飲み込むと有害。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。
発がんのおそれ。
臓器の障害。(気道)
臓器障害を引き起こす。(副腎、腕、膀胱、血液系、骨髄、骨、脳、腎臓血管系、中枢神経系(CNS)、結膜、消化器系、耳、内分泌物、内皮、目、足、指、胆嚢、神経節、消化器管、腺、手、頭、心臓、視床下部、免疫系、腎臓、脚、肝臓、肺、リンパ系、粘膜系、筋肉組織、神経系、鼻/鼻腔、視覚神経、卵巣、膵臓、末梢神経系、脳下垂体、胎盤、前立腺、生殖器系、皮膚、脊柱、脾臓、胃、歯、精巣、喉、甲状腺、舌、気管、子宮/子宮頚)
呼吸器への刺激のおそれ。
吸入による長期ないし反復暴露により臓器障害を引き起こす。(肺)
長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害のおそれ。(気道、精巣)
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 指定された個人用保護具を使用すること。 保護手袋を着用すること。 保護眼鏡または保護面を着用すること。 保護手袋/衣類を着用すること。 涼しいところに置くこと。 日光から遮断すること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 粉塵を吸入しないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

2。 危険有害性の要約

応急措置 : 漏出物を回収すること。 気分が悪い時は、医師の手当てを受けること。

暴露した場合: 医師の手当てを受けること。 医師に連絡すること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ただちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合: ただちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。

皮膚(または髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。 ただちに医師に連絡すること。 汚染された衣類を再使用す場合には洗濯をすること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 ただちに医師に連絡すること。

保管 : 施錠して保管すること。 kg 以上の大量品は、° C 以下の温度で保管すること。 他の物質から離して保管すること。 積荷/パレット間にすきまをあけること。

廃棄 : 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

シンボル :

分類されていない他の危険有害性 : データなし。

3。 組成及び成分情報

物質/製剤 : 混合物

成分名	%	CAS 番号	ENCS	労働安全衛生法
酸化銅(II)	20-25	1317-38-0	(1)-297	データなし。
酸化アルミニウム	15-20	1344-28-1	(1)-23	(9)-189
二酸化ケイ素	10-15	7631-86-9	(1)-548	(9)-312
酸化亜鉛	2.5-25	1314-13-2	(1)-561	(9)-188
炭素	5-10	7440-44-0	データなし。	データなし。
酸化カルシウム	5-10	1305-78-8	(1)-189	(9)-190
酸化ナトリウム	1-5	1313-59-3	(1)-495	データなし。
黒鉛	1-5	7782-42-5	データなし。	データなし。
石英(結晶)	0.1-1	14808-60-7	(1)-548	データなし。

提供者の現在の知識の範囲および該当する濃度では、本製品の補足的な成分の中には健康または環境に対して有害危険性であると分類されるためこのセクションで報告が義務づけられている成分は含まれていません。

職業性暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

この商品は、ときに使用されて合理的な条件や雇用のモードに応じて、健康を提示する危険性はない。しかし、製品の使用または処理する方法に矛盾して5月の雇用のモードと現在の製品の性能に影響を与える潜在的なリスクを健康と安全です。

4。 応急措置

応急措置

吸入した場合 : 直ちに医師の診断を受ける。 医師に連絡する。 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。 呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。 救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。 意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。 気道を開いた状態に維持する。 襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

飲み込んだ場合 : 直ちに医師の診断を受ける。 医師に連絡する。 水で口を洗浄する。 入歯をしている場合ははずす。 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。 嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。 医師の指示がない限り、吐かせてはならない。 もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。 化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。 意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。 意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。 気道を開いた状態に維持する。 襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

皮膚に触れた場合 : 直ちに医師の診断を受ける。 医師に連絡する。 多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。 汚染された衣服および靴を脱がせる。 汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。 少なくとも10分間洗い流し続ける。 化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。 衣類は、再着用の前に洗濯する。 靴は再使用前に十分に洗浄する。

4。 応急措置

目に入った場合 : 直ちに医師の診断を受ける。 医師に連絡する。 すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。 コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。 少なくとも10分間洗い流し続ける。 化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。

応急措置をする者の保護 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。 救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。 汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。

医師に対する特別注意事項 : 症状に対応した対処療法を行うこと。 大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

特定の治療法 : 特定の治療法はない。

健康への影響と症状の詳細については、セクション11を参照。

5。 火災時の措置

消火剤

適切 : 粉末化学消火剤、炭酸ガス、ウォータースプレー、泡消火剤を使用する。

不適切 : ウォータージェットを使用してはならない。

特定の危険有害性 : 大量の場合、自己発熱する物質。 引火のおそれあり。 本製品は水生生物に対して非常に有毒であり、長期にわたり持続する影響を有する。 本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。

有害な熱分解生成物 : 分解生成物には以下の物質が含まれることがある:
二酸化炭素
一酸化炭素
金属酸化物

消火を行う者に対する注意事項 : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。 ウォータースプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。

消防士用の特殊保護具 : 消防士は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具(SCBA)を装着しなければならない。

6。 漏出時の措置

人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 周辺地域の人々を避難させる。 関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。 漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。 全ての発火源を遮断する。 危険地域には、発火信号、煙草、火焔機器を持ち込まない。 十分な換気を行う。 換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。 製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。 水質汚染物質である。 大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。 漏出物を回収すること。

封じ込めおよび洗浄に関する方法および材料 : 漏出区域から容器を移動する。 物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に収容する。 火花防止型の工具および防爆型の装置を使用する。 許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7。 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項 : カートリッジを開けてはいけない。適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での 飲食および喫煙は厳禁。 作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。 飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。 暴露を避ける－使用前に個別の取扱説明書を入手する。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 眼、皮膚および衣類に触れないようにする。 摂取してはならない。 環境への放出を避けること。 換気が十分な場所でのみ使用する。 換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。 十分な換気がない限り、保管場所および密閉された空間に入らないこと。 使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。 熱、火花、炎、その他の発火源から離れた場所で保管ならびに使用する。 火花を発生させない工具を使用すること。 容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。 容器を再利用してはならない。

安全に保管するための注意事項 : 現地法に従って保管する。 隔離され認定された場所に貯蔵する。 元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。 kg 以上の大量品は、° C 以下の温度で保管すること。 施錠して保管すること。 あらゆる発火源を除去する。 他の物質から離して保管すること。 積荷/パレット間にすきまをあけること。 使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。 いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。 ラベルのない容器に保管してはならない。 環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8。 暴露防止及び保護措置

許容濃度

職業暴露限界

成分名	暴露限界値
酸化亜鉛	JP JSOH I-1 OEL (日本、5/2009)。 OEL-M: 1 mg/m³ 8 時間。形状: Respirable dust OEL-M: 4 mg/m³ 8 時間。形状: Total dust
炭素	ISHL (日本、10/2004)。 管理濃度: 3 mg/m³ 8 時間。形状: 粉塵
石英(結晶)	JP JSOH I-1 OEL (日本、5/2009)。 OEL-C: 0.03 mg/m³ 形状: Respirable dust

この製品には、危険な成分は、カートリッジに密封さを考えると、吸入、誤飲や皮膚と眼への接触を通じて暴露の危険性を最小限に抑えています。

推奨される測定方法 : 当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要がある。

適切な技術的管理 : 換気が十分な場所でのみ使用する。 この製品に関連する一次的あるいは二次的リスクを管理するために、技術的な管理対策が必要になる可能性がある。 行程囲壁、局所排気通風装置あるいはその他の技術的管理設備を使用し、作業者が暴露される空中浮揚汚染物質濃度をあらゆる推奨あるいは法定暴露限界以下に保つ。 ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。 防爆型換気装置を使用する。

環境暴露管理 : 換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。 場合によっては排出物を許容レベル以下に下げるために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。

個人の保護措置

衛生措置 : 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙およびトイレの使用前および作業時間の最後に、必ず手、前腕および顔を洗う。 汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。 汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。 作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。

呼吸器の保護具 : リスク評価により必要性が示されたときは、承認された基準に合格した、身体に良く合った空気清浄機能付きまたは給気式の呼吸保護具を使用する。 使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。

手の保護具 : リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。

目の保護具 : リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。

皮膚の保護 : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならず、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

9。 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態 : 固体。

色 : 茶色。[暗色]

臭い : 無臭。

臭気閾値 : データなし。

pH : データなし。

融点 : >1300° C (>2372° F)

沸点 : データなし。

引火点 : データなし。

蒸発速度 : データなし。

引火性(固体、気体) : 次の物質および条件の存在下で非常にに引火性: 湿気。

爆発(燃焼)限界の上限および下限 : データなし。

蒸気圧 : データなし。

蒸気密度 : データなし。

比重 : データなし。

溶解度 : 以下の物質に不溶性: 冷水 および 温水。

オクタノール/水分配係数 : データなし。

分解温度 : データなし。

9。 物理的及び化学的性質

自己発火温度 : データなし。

10。安定性及び反応性

化学的安定性 : 製品は安定である。

危険な反応の可能性 : 特定の貯蔵または使用条件において危険有害性反応または不安定性を生じることがある。
条件には次のものを含む場合がある:
バルク保管中における空気との長時間の接触
反応には次のものを含む場合がある:
火災を引き起こすリスク
自然発火性

避けるべき条件 : いかなる発火源（火花あるいは炎）にも近づけてはならない。

混触危険物質 : 次の物質と非常に反応性あるいは危険配合製: アルカリ および 湿気。
次の物質と反応性あるいは危険配合性: 酸化性物質、有機物質、金属 および 酸。

危険有害な分解生成物 : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11。有害性情報

最も重要な健康への影響

起こりうる急性毒性

吸入した場合 : 吸入すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こす。 呼吸器への刺激のおそれ。

飲み込んだ場合 : 飲み込むと有害。 口、喉および胃に火傷を起こすことがある。

皮膚に触れた場合 : 重度のやけどを引き起こす。

目に入った場合 : 重篤な眼の損傷。

健康への慢性効果の可能性

概要 : 長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害。

吸入した場合 : 吸入による長期ないし反復暴露により臓器障害を引き起こす。

飲み込んだ場合 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

皮膚に触れた場合 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

目に入った場合 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

発がん性 : 発がんのおそれ。 がんのリスクは、暴露の期間およびレベルによって異なる。

変異原性 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

催奇形性 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

発育への影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

生殖能力に対する影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

吸入した場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
気道の刺激
咳

飲み込んだ場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胃痛

皮膚に触れた場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み及び刺激
発赤
水ぶくれになることがある

目に入った場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み
流涙
発赤

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
酸化銅(II)	LD50 経口	ラット	470 mg/kg	-

刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察
二酸化ケイ素	眼 - 軽度の刺激性	ウサギ	-	-	-
酸化亜鉛	眼 - 軽度の刺激性	ウサギ	-	-	-
	皮膚 - 軽度の刺激性	ウサギ	-	-	-

感作性

データなし。

11。有害性情報

慢性毒性 / 発がん性 / 変異原性 / 催奇形性 / 生殖毒性

データなし。

特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)

名称	標的器官
酸化銅(II)	気道刺激性
酸化アルミニウム	気道刺激性
酸化亜鉛	未確定
酸化カルシウム	気道 目 肺
酸化ナトリウム	気道刺激性
黒鉛	気道
石英(結晶)	

特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)

名称	標的器官
酸化アルミニウム	肺
二酸化ケイ素	肺
酸化亜鉛	肺
炭素	腎臓血管系 および 気道
酸化カルシウム	気道 および 精巣
黒鉛	肺
石英(結晶)	腎臓、気道 および 精巣

呼吸に対する危険有害性

名称	結果
酸化カルシウム	吸引性呼吸器有害性 - 区分 1

急性毒性推定値(ATE値)

経路	結果
経口	1458.7 mg/kg

12。環境影響情報

生態毒性 : 本製品は水生生物に対して非常に有毒であり、長期にわたり持続する影響を有する。

水中毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
酸化銅(II)	急性 EC50 11 ~ 39 ug/L 真水	ミジンコ属 - Daphnia magna - <24 時間	48 時間
	急性 LC50 25.4 ~ 29.5 ppm 真水	魚類 - Oncorhynchus mykiss	96 時間
	慢性 NOEC 0.4 mg/L 真水	ミジンコ属 - Daphnia magna - Neonate	48 時間
酸化アルミニウム	急性 NOEC >100 mg/l	ミジンコ属	48 時間
酸化亜鉛	急性 LC50 98 ug/L 真水	ミジンコ属 - Daphnia magna - Neonate - <24 時間	48 時間
	急性 LC50 1.1 ~ 2.5 ppm 真水	魚類 - Oncorhynchus mykiss	96 時間
	慢性 NOEC 0.4 mg/L 真水	ミジンコ属 - Daphnia magna - Neonate	48 時間

残留性/分解性

データなし。

生物濃縮の可能性

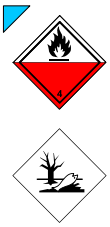
製品 / 成分の名称	$LogP_{ow}$	BCF	可能性
酸化アルミニウム		-	-

その他の悪影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13。廃棄上の注意

廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。 空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。 この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。 余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。 この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

14。輸送上の注意

適用法令	国連番号	輸送固有名	クラス	PG*	ラベル	追加情報
IMDGクラス	UN3190	SELF-HEATING SOLID, INORGANIC, N.O.S. (Activated Copper oxide). Marine pollutant (Activated Copper oxide, Zinc oxide)	4.2	II		Emergency schedules (EmS) F-A, S-J
IATA クラス	UN3190	Self-heating solid, inorganic, n.o.s. (Activated Copper oxide)	4.2	II		Passenger and Cargo AircraftQuantity limitation: 15 kg Packaging instructions: 415 Cargo Aircraft Only Quantity limitation: 50 kg Packaging instructions: 417 Limited Quantities - Passenger Aircraft Quantity limitation: Forbidden Packaging instructions: Forbidden Remarks Requires Shipper's Declaration of Dangerous Goods

PG* : パッキンググループ

15。適用法令

日本の管理法令

火薬類取締法 : データなし。

高圧ガス保安法 : データなし。

消防法 : データなし。

消防法 : データなし。

要届出物質 : データなし。

消防法 - 妨害物質 : 記載された

指定数量 : データなし。

指定数量 : データなし。

指定数量 : データなし。

性質 : データなし。

危険等級 : データなし。

毒物及び劇物取締法

成分名	状況
酸化銅(II)	記載された

特定化学物質の用途 : データなし。

労働安全衛生法 : 57条。

有機則 : データなし。

15。適用法令

鉛中毒予防規則 : データなし。

職業病 : データなし。

海洋汚染および海洋災害防止法 : データなし。

危険物の海上運送規制に関する通達 : データなし。

航空法 : データなし。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR) : リストに記載されていない

道路法 : データなし。

日本産業衛生学会 発がん性物質 : 1類

労働安全衛生法: 第十八 - 四アルキル鉛等業務 : リストに記載されていない

労働安全衛生法: 第十八 - 製造の許可 : リストに記載されていない

労働安全衛生法: 第十八 - 製造等の禁止 : リストに記載されていない

労働安全衛生法 - 名称等を通知すべき危険物及び有害物 : 記載された

労働安全衛生法: 第十八 - 危険物 : リストに記載されていない

特別管理産業廃棄物リスト : リストに記載されていない

化審法 （監視, 特定化学物質）

データなし。

生分解性 : データなし。

魚に蓄積した化学物質の濃度 : データなし。

日本インベントリ : 未確定。

その他の規定 : データなし。

製品特有の安全、健康および環境に関する法規 : この製品(その成分を含む)に適用される可能性のある特定の国および/または地域の規則は知られていない。

16。その他の情報

ヒストリ

発行日/改訂版の日付 : 20/10/2010

前作成日 : 21/06/2010.

バージョン : 2

参照 : データなし。

前バージョンから変更された情報を指摘する。

注意事項

使用者への注意: このデーターシートは作成時における最新情報に基づいて作成されています。しかしながら記載されている内容は情報提供であり、その正確性あるいは完全性に関していかなる保証をなすものではありません。